

2021 年度

立命館アジア太平洋大学 卒業後調査

基礎集計報告書

目次

調査の概要.....	2
調査の目的.....	2
調査の対象.....	2
調査の方法.....	2
調査の期間.....	2
主な調査項目.....	2
回収の状況.....	2
回答者の属性.....	3
大学時代の様子.....	4
大学卒業後の様子.....	6
卒業直後の進路と現在の職業.....	6
海外での就業経験と転職経験.....	6
卒業後に修得した学位や資格.....	7
大学に対する満足度.....	8
卒業生が考える重要なコンピテンシー.....	10
おわりに.....	11

調査の概要

調査の目的

APU の卒業生が在学中に経験した学びや経験が、卒業後にそれぞれの生活でどのように実践され、役立っているか（有効性）、また卒業生が学びや経験をどう評価しているかを明らかにし、APU が掲げる人材育成目標（APU2030 ビジョン・ディプロマポリシー）の成果検証を卒業後の学生の視点を利用して行い、検証結果を今後の教育の改善活動の取り組みに繋げる。

また、可能な範囲で現在の職業、社会的地位、聞き取り卒業生の個人情報収集し、実態を把握することで、潜在的な支援者の掘り起こしを行う。

調査の対象

卒業後 5 年、10 年、15 年にあたる 2016 年度卒業、2011 年度卒業、2006 年度卒業の合計 3393 名のうち、大学が卒業後のメールアドレスを把握している 2411 名。

調査の方法

インターネットによるオンライン調査（無記名）アンケートシステム SHANON を利用

調査の期間

2022 年 1 月から 5 月

主な調査項目

属性（卒業年度、学部、国内/国際学生、言語基準、国籍）

大学時代の取り組み（学習時間、成績、留学経験）

大学卒業後のこと（現在の居住地、卒業直後の進路、現況、海外での勤務経験、転職経験、卒業後に修得した学位や資格）

APU への満足度、帰属意識、支援意欲

APU で習得した資質・能力に対する評価

年収、社会的地位 *任意

回収の状況

大学がメールアドレスを把握している 2411 人に対しメールの送信を行い、送信不可で戻ってきたメールを除く 2294 人に送信完了した。（メールリーチ率 95.2%）うち 228 人から回答を得られた。（回

答率 9.9%) メールマガジンでの周知や回答期限の延長などを行ったが、目標としていた回収率 (20%) には届かなかった。

回答者の属性

学部別の内訳と国内学生、国際学生 (いずれも在学中の状態) の内訳、卒業年度別の内訳を示す。大きな偏りはみられない。2006 年度の卒業生数は 2016 年度、2011 年度よりも少ないため回答者も少なくなっている。回答者の国籍は 27 カ国・地域 (日本含む)。

Summary 回答者サマリー

学部	国際学生・国内学生	卒業年度			総計
		2006年度	2011年度	2016年度	
アジア太平洋学部	国際学生	7	11	17	35
	国内学生	19	29	29	77
国際経営学部/アジア太平..	国際学生	16	33	25	74
	国内学生	13	17	12	42
総計		55	90	83	228

調査期間：2022年1月~5月

調査対象者：2021 年度対象者：3393 名のうち、大学が卒業後のメールアドレスを把握している2410名

2016 年度卒 (1019/1200 人)、2011 年度卒 (880/1306 人)、2006 年度卒 (512/887 人)

メールリーチ件数 2294 (リーチ率95.2%)

回答率 9.9% (228/2294)

Summary (回答者数) (学部別)



Summary (回答者数) (国内国際別)



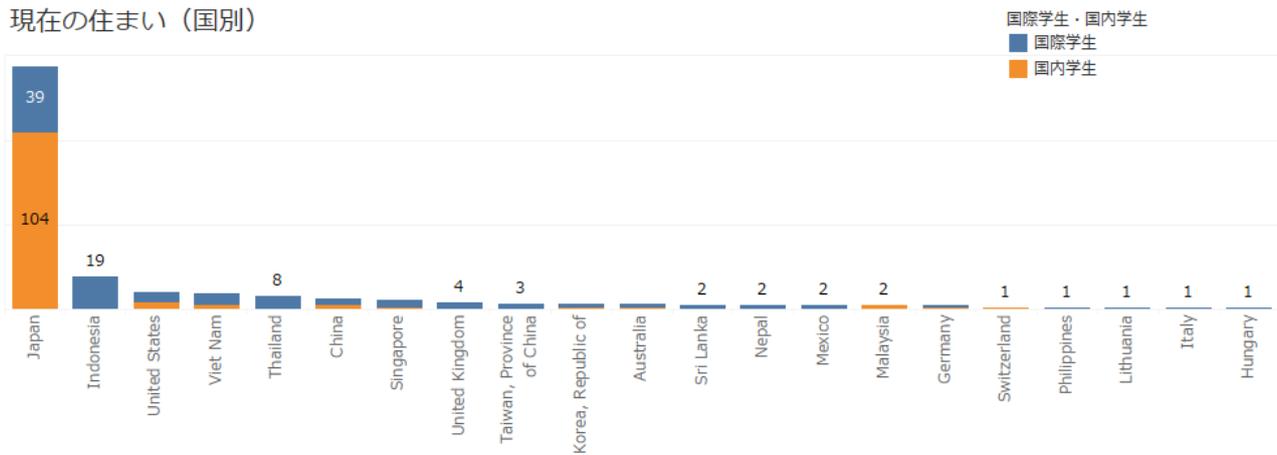
Summary (回答者数) (卒業年度別)



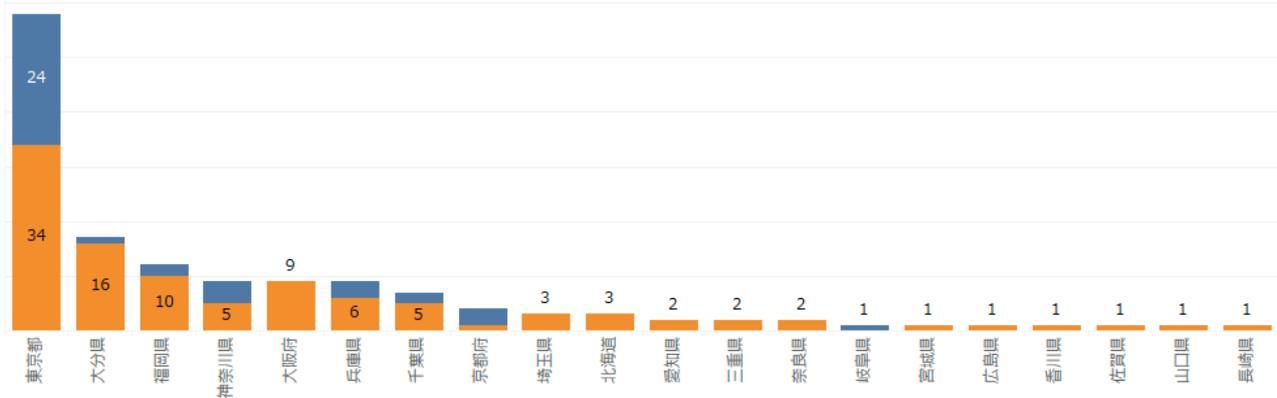
現在の居住地の分布を示す。日本が最も多く、次いでインドネシア、アメリカ、ベトナム、タイと続く。国内在住者の都道府県別では東京が最も多く、次いで大分県、福岡県、神奈川県、大阪府、兵庫県と続く。

現在の居住地

現在の住まい（国別）



現在の住まい(都道府県)



大学時代の様子

在学中の様子として成績、学修時間、留学経験について質問した回答結果を示す。成績（自己認識）は「真ん中からやや上位」から「上位」という回答が多く、成績優秀層であったと自覚がある卒業生が約半数となっている。1週間当たりの学習時間については「10時間以上」が最も多く、10時間以上から20時間以上の回答を合わせると半数以上となり少なくとも1日約85分学習に費やしていたことが分かる。在学中の留学経験は41.7%が「ある」と回答している。

第一世代（First Generation College Students）に関する質問はSDGsへの取り組みや大学ランキングで利用される指標であることに鑑み、今回以下の説明文を付した上で質問を行った。First Generationで「ある」と回答した割合は31.6%であった。

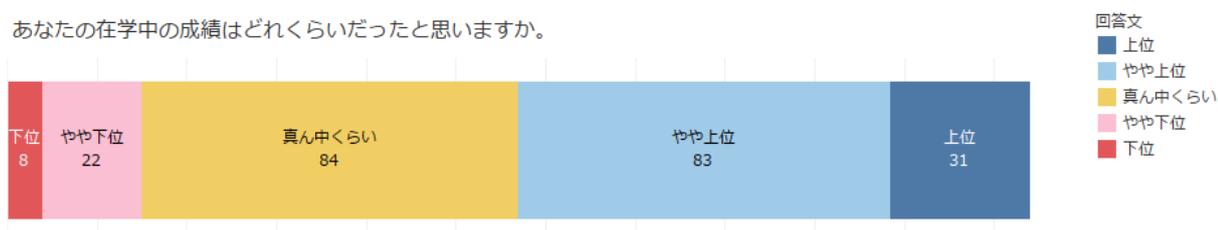
APUはインクルーシブな社会の実現を目指し、SDGsの「Goal4 質の高い教育をみんな」にGoal10「人や国の不平等を無くそう」へのアプローチを行なっています。

社会構造的な教育機会の不平等を解消し、異なる環境で育った多様な学生が集う大学づくりをミッションの一つと捉え、First Generation students 第一世代大学生への支援を検討しています。

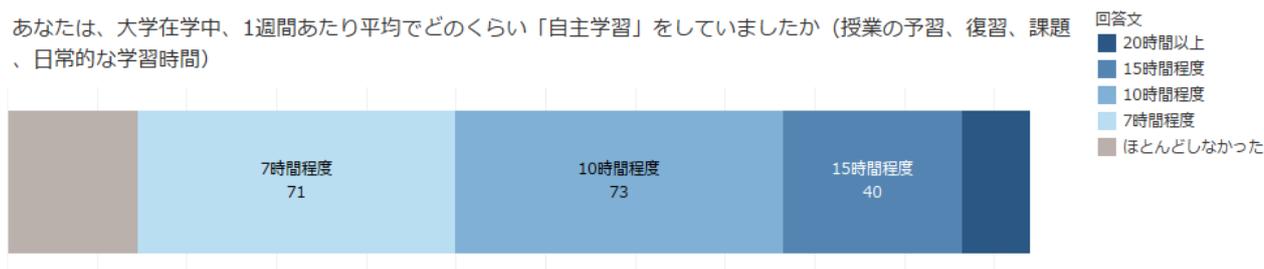
この設問はAPUにおけるFirst Generation studentsの実態を把握するために設けています。任意での回答となりますのでご協力いただける場合のみご記入ください。注) First Generation studentsとは、一般的に両親が大学学位を持たない(大卒ではない)学生のことを指します

在学中の様子

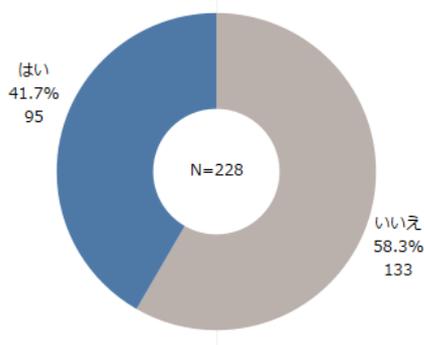
あなたの在学中の成績はどれくらいだったと思いますか。



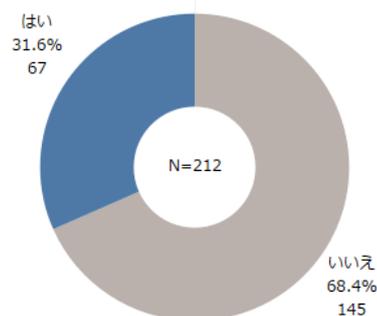
あなたは、大学在学中、1週間あたり平均でどのくらい「自主学習」をしていましたか(授業の予習、復習、課題、日常的な学習時間)



あなたは大学在学中、留学(海外短期研修や国際ボランティアなどを含む。海外旅行は除く)の経験がありますか



あなたは両親が大学学位を持っていない(大卒ではない)「第一世代大学生」(First Generation College Students)にあたりますか(任意)



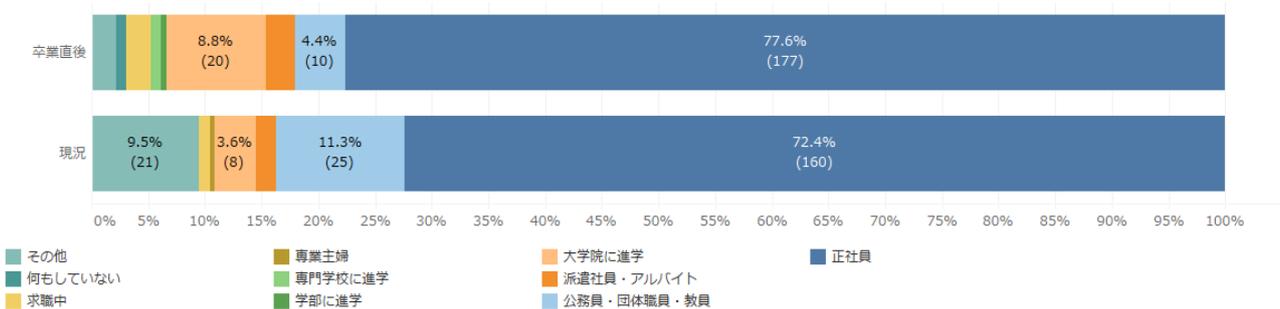
大学卒業後の様子

卒業直後の進路と現在の職業

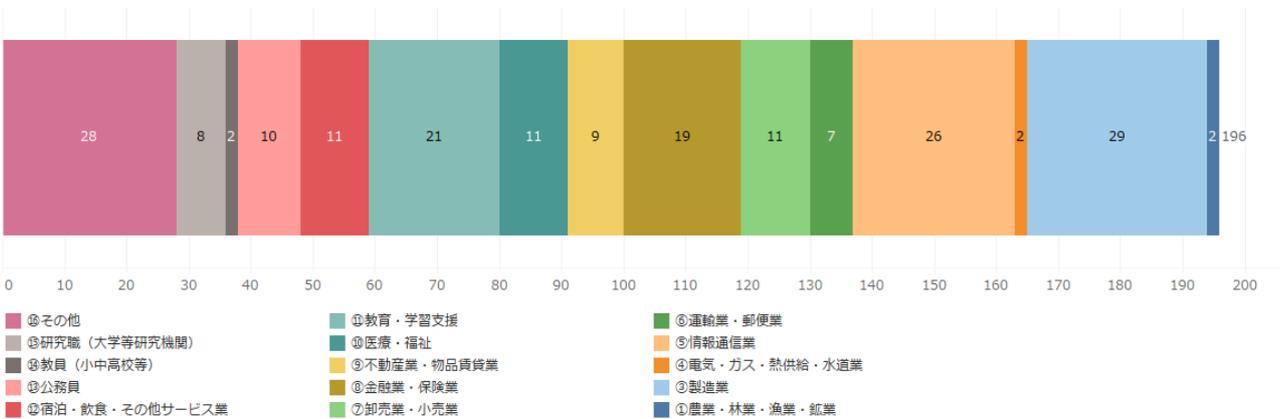
卒業後の進路は77.6%が正社員と回答している。「大学院に進学」の回答は8.8%。現在の職業は「公務員」「団体職員」「教員」の割合が卒業直後よりも増えている。現在の職種の職種別内訳を以下に示す。

キャリアパス①

あなたが大学を卒業した後の進路として当てはまるものを1つ選んでください（上：卒業直後、下：現況）



就業している方にお聞きます。あなたの現況として当てはまるものを1つ選んでください（職種）

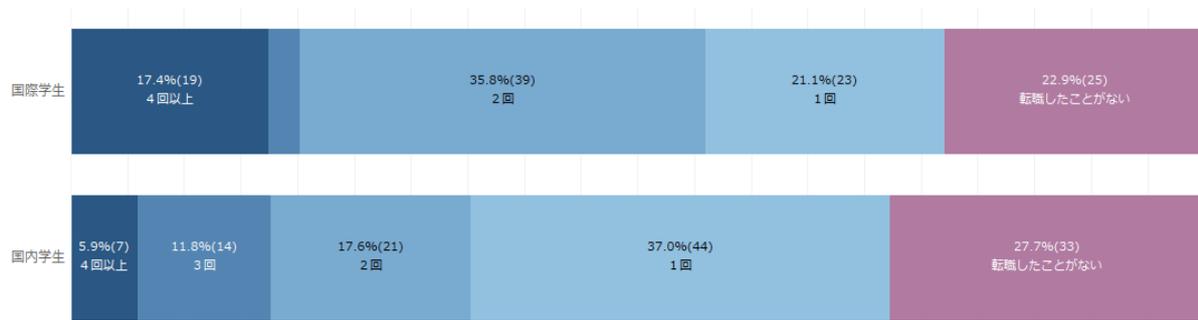


海外での就業経験と転職経験

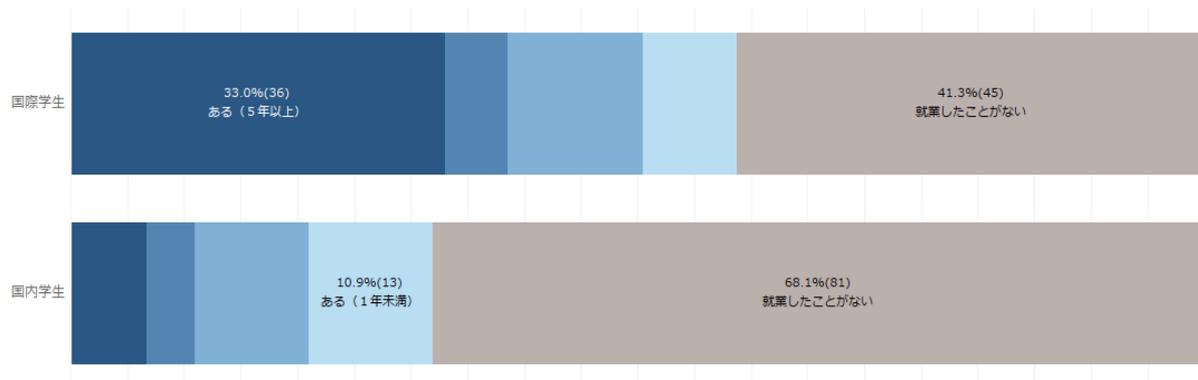
海外での就業経験と転職経験についての回答を国内学生、国際学生別に集計したものを以下に示す。国際学生の77.1%が転職の経験があると回答し、うち2回以上の転職経験があるという回答が半数を超えている。（国内学生は35.3%）また、母国以外で3か月以上の就業経験があるかどうかの回答は国際学生の58.7%が「ある」と回答。対して国内学生は31.9%が「ある」と回答。

キャリアパス②転職・海外就業経験

あなたは転職したことがありますか



あなたはこれまでに母国以外での3ヶ月以上の就業経験はありますか

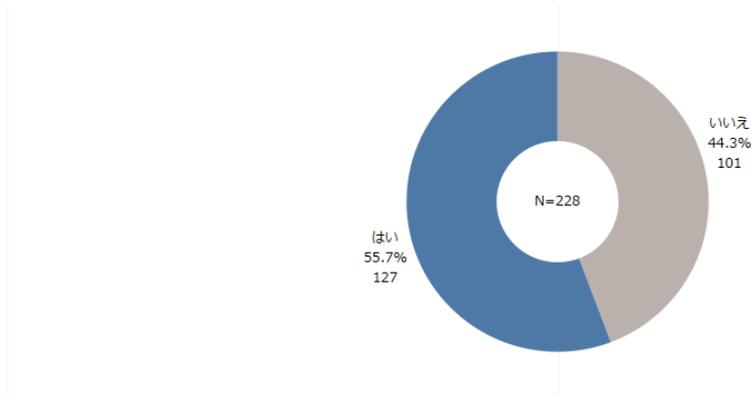


卒業後に修得した学位や資格

卒業後に取得した学位、資格、免許に関する質問の回答を以下に示す。国際学生の55.7%が「ある」と回答し、取得した学位や資格の内訳は「その他」以外では「修士号」が最も多く、卒業後に学位または資格を取得した国際学生の47.6%、国内学生の13.6%が修士号を取得したと回答した。

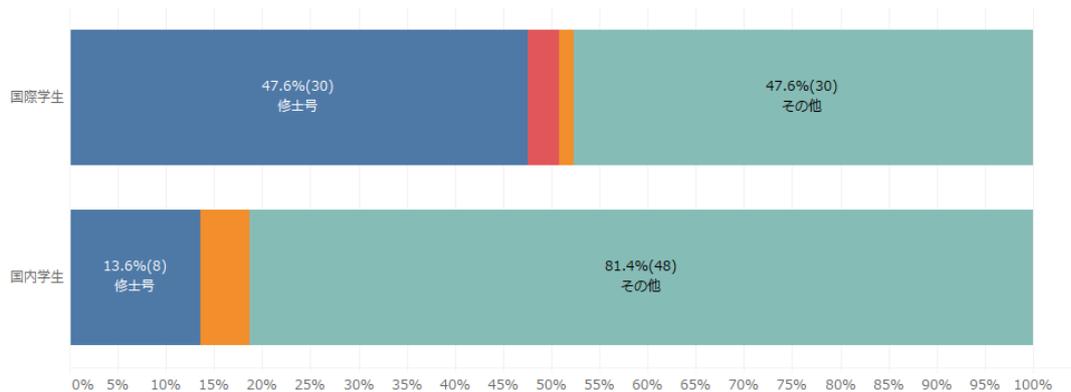
あなたは卒業後に新しい学位、資格、免許を取得しましたか？

回答文
 ■ いいえ
 ■ はい



卒業後に取得した学位、資格、免許を選択してください。

回答文
 ■ その他
 ■ 教員免許
 ■ 公認会計士（海外）
 ■ 修士号



大学に対する満足度

大学時代の学びや経験を「正課での授業」「TA・イベント・サークル活動など正課外」「アルバイト、旅行など大学以外」に分けてそれぞれ「現在の仕事や生活にどのくらい役に立っているか」を5段階で質問した。どの項目も「役に立っている」の回答が65%を超えた。上記3つの分類の中では、「アルバイト、旅行など大学以外」が最も高く75.9%が役に立っていると回答した。

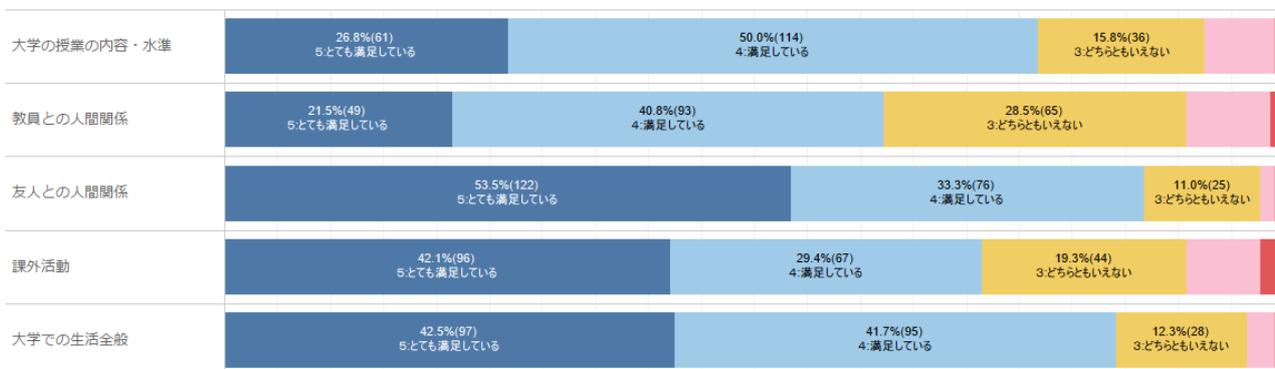
次に、「教育や学生生活」を「大学の授業の内容」「教員との関係」「友人との関係」「課外活動」「大学での生活全般」に分けてそれぞれ「どの程度満足しているか」を同じく5段階で質問した。「友人との人間関係」の満足度が最も高く、86.8%が「満足」と回答した。「教員との関係」は62.3%が満足と回答し、5つの項目の中では最も低かった。

満足度①

大学時代の学びや経験はあなたの現在の仕事や生活にどのくらい役に立っていると思いますか。



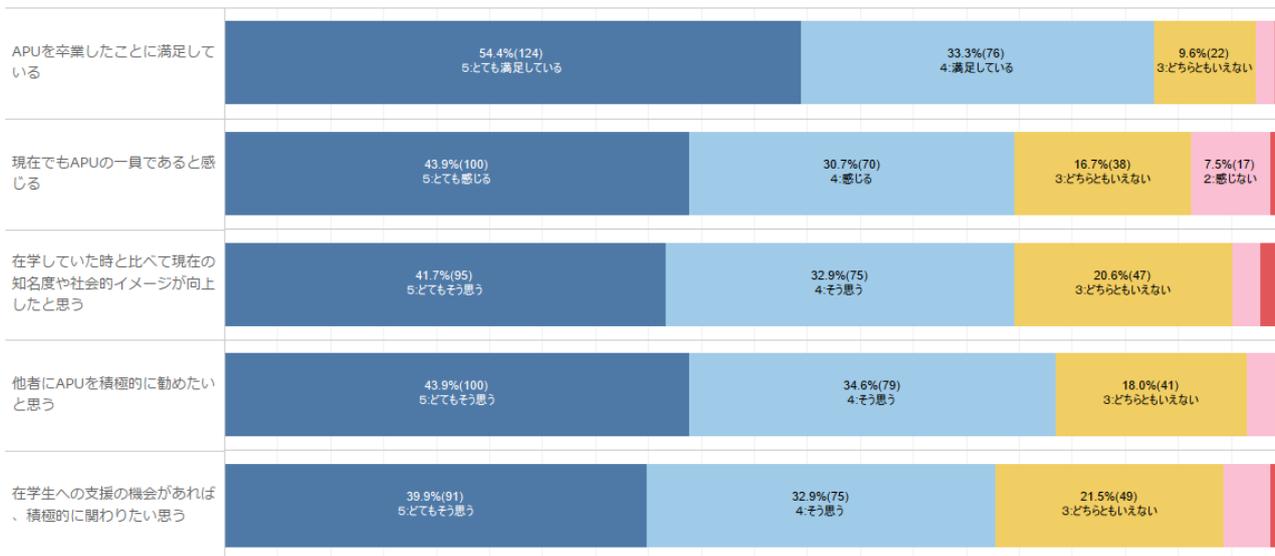
あなたは、大学時代の教育や学生生活にどの程度満足していますか。



APU に対する感情を「APU を卒業したことを満足している（満足度）」「現在でも APU の一員であると感じている（帰属意識）」「APU の社会的イメージへの見解」「APU を他者に勧めるかどうか」「学生への支援意欲」の 5 つに分けてそれぞれ 5 段階で質問した。満足度は 87.7% が満足と回答している。72.8% が「機会があれば支援に積極的に関わりたい」と回答しており、大学からの個別ヒアリングへの協力を承諾する回答が 72.4% あり、支援意欲を持った卒業生がいることが分かる。また、74.6% が自身の在学時よりも APU の知名度や社会的イメージが向上したと感じている。

満足度②

現在、APUに対してどのように感じていますか。



このアンケートに基づき、後日、大学からのヒアリング調査にご協力を頂けますか

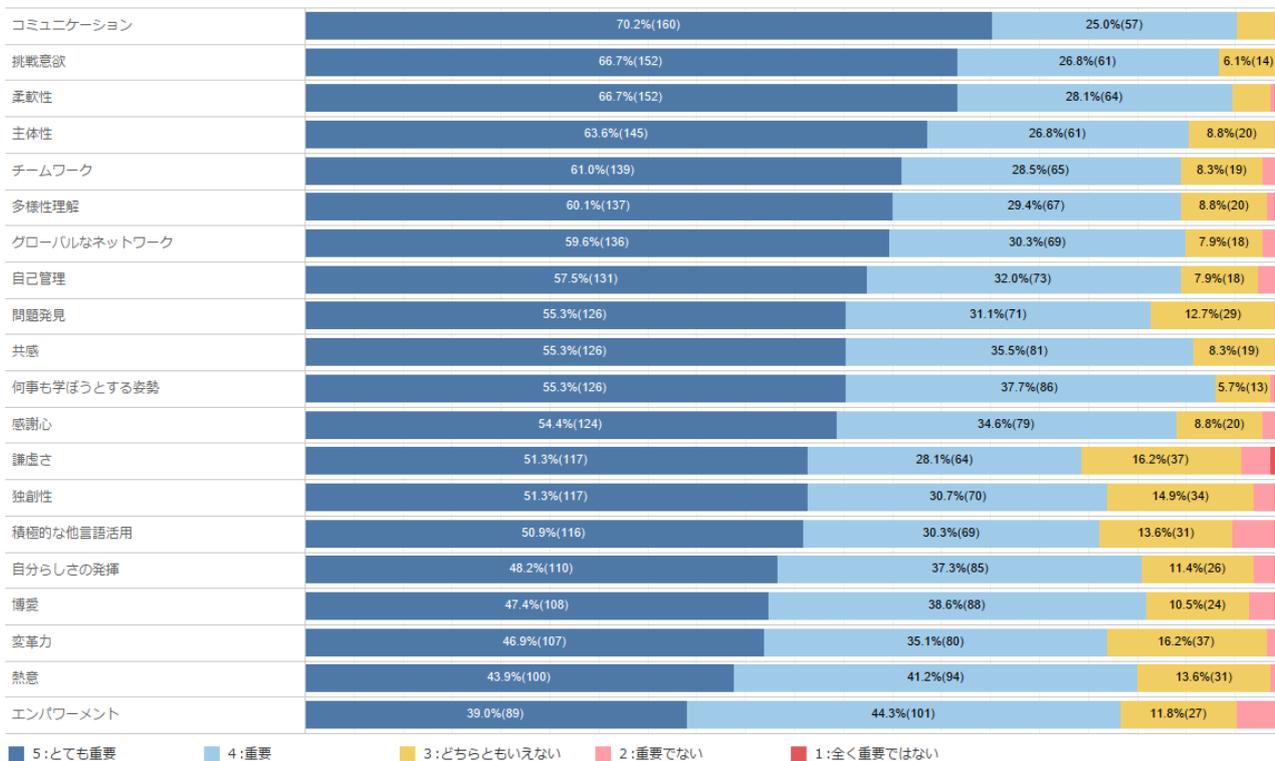


卒業生が考える重要なコンピテンシー

APU ルーブリックの 20 のコンピテンシーについて、卒業生が自身の仕事や生活においてどのくらい重要と感じているかを 5 段階で質問した結果を以下に「とても重要である」と回答した割合が多いコンピテンシーの順番に並べて示す。重要であるという回答が最も多かったコンピテンシーは「コミュニケーション」(95.2%)、ついで「挑戦意欲」(93.5%)、「柔軟性」(94.8%)。その後、「主体性」「チームワーク」「多様性理解」と続く。

卒業生が考える重要なコンピテンシー

以下の項目は、APUが学生に身に付けて欲しいと考える資質や能力です。
これらの資質や能力はあなたの現在の仕事や生活においてどのくらい重要だと思いますか。



おわりに

問い合わせ先

学長室 IR チーム (irteam@apu.ac.jp) 担当：友常・原